

【スペシャルインタビュー】

高木 一昌（株式会社丸高工業 代表取締役）

山田 繁（株式会社丸高工業 サイレントシステム事業部 コンサルティング営業部 副部長）

昨今、建築費の高騰や人手不足、工期延長といった課題が医療機関にも影響を及ぼしており、老朽化した施設の改修ニーズが高まっています。その中でも特に注目されているのが、丸高工業が提供する消音省力化技術「サイレントシステム」です。

本インタビューでは、サイレントシステムの開発背景、具体的なメリット、さらに音や振動を最小限に抑える工法の有効性とその普及に向けた取り組みについて深掘りします。また、今後の展望や新たな課題への対応策についてもお話しいただきました。ぜひ、多くの方にこの技術の魅力と可能性を感じていただければと思います。



高木 一昌

1921年漆塗り業として創業し、主に耐震補強等のリニューアル工事業を取り扱う丸高工業の三代目。

1982年に丸高工業代表取締役に就任、現在に至る。

15年前よりサイレントシステムを開発し、建設業界における社会的課題である工事騒音の消音化に取り組んでいる。



山田 繁

管材商社を経て、丸高工業へ入社。2024年サイレントシステム事業部営業部副部長就任後、全国エリアを対象とした提案活動の組織運営を担当。

◆医療環境を一変させる「サイレントシステム」の導入

医療現場における建設工事が消音化されることで、病院の診療に与える影響を最小限に留める。この目的から創出された「サイレントシステム」が今、丸高工業によって再定義されつつあります。丸高工業の代表取締役である高木氏、サイレントシステム事業部営業部副部長である山田氏にその革新技术について詳しくお聞きしました。

◆騒音と振動のない世界を目指す一歩

高木氏が語るところによると、サイレントシステムの開発は15年前に遡る。医療機関やその他の改修工事が夜間に行われる厳しい労働条件を改善し、若い社員が希望を持って働ける環境を目指し、騒音と振動を抑える技術に注目した。

「医療機関において工事騒音は深刻な問題であり、これが原因で診察ができなくなることが多々ありました。そこで騒音と振動を抑えるための技術開発に踏み切りました。これにより、医療現場でのストレスを軽減することができるようになりました。」(高木氏)

◆音の遮断と振動の低減

高木氏は、調査の過程で騒音と振動の発生源を詳細に分析し、取り組みの方向性を見出した。工事の騒音を45dB以下に抑えるために、振動の発生を物理的に抑制することが重要と考えた。

「特に効果的だったのは、空気の伝播を遮断することでした。高い機密性を持つ遮音壁を作ることで、工事中の騒音を劇的に減少させることができました。」(高木氏)

◆工事現場の実績と評価

高木氏と山田氏によれば、丸高工業のサイレントシステムは多くの医療施設で高い評価を受けている。一例として築地にある著名ながん病院での導入事例では、重症患者が多数いる病院で、工事による騒音が低減され、患者や医療スタッフからのクレームもなくなった。

「このシステムを導入することで、工事の工期が大幅に短縮され、予算内で完了させることができました。まさに、サイレントシステムの大成功例と言えます。」(山田氏)

◆工具の軽量化と女性の労働参加促進

さらに丸高工業は、工具の軽量化にも取り組み、女性や高齢者の労働参加も促す。従来の重い工具が軽量化されることで、作業環境が大幅に改善され、多様な労働者が活躍できる場が広がった。

「工具が軽くなったことにより、多くの方が気軽に作業を行えるようになりました。これは、特に女性労働者の参加を促す大きな一歩です。」(高木氏)

◆今後の展望と課題

高木氏は、サイレントシステムの普及を目指し、独自の認定基準設定の必要性を訴える。消音工事の基準を確立し、医療機関における消音工事の標準化を促進したいと考える。そのために東大の坂本教授と協力し、騒音と振動の影響を詳細に調査する予定という。

「私たちが目指すのは、全国どこでも消音工事が可能となり、医療施設の改修工事がスムーズに行われることです。」(高木氏)

◆地域と共に歩む丸高工業

丸高工業は地方自治体とも連携し、消音工事技術を全国に普及を目指す。

「地方では夜間工事が難しいという声が多く寄せられています。サイレントシステムが昼間でも適用できることを広めることで、工事の効率化が図れると考えています。」(高木氏)

◆最後に

本インタビューを通して、丸高工業のサイレントシステムが医療機関にとってどれほど重要かを深く理解することができました。これからも丸高工業の技術革新に注目し続けたいと思います。消音工事が全国に広まり、多くの医療機関がその恩恵を受ける日が来ることを願います。

(聞き手)

森ヘルスケア・サポート株式会社

森 清司